

背凭れにどさり夏帯掛けにけり

大村紀子

【評】夏帯は、単衣の着物を着る頃から締めます。また、一般の帯と違い麻などの素材を用い、織り目が粗くて透け感があり軽く、見た目も清涼がある。そのような帯を、作者は椅子かソファアの背凭れに「どさり」と丁寧に掛けたのです。決して重くない、夏の帯を重いものを置くように表現したこの句には、夏の暑い想いと何か何遂げた安堵感さえ見えている。夏を帯の重さで表現した作者の巧みさと力量が見える佳句である。